

令和 8 年度 大分県 英語教育改善プラン

言語活動を通した児童の英語力の確実な育成及び 小学校と中学校の学びのつながりを大切にした指導の充実

目標

- ☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
- (パフォーマンステスト含む)
 (専科教員含む)
 (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①大分県独自の学力調査の結果において、英語の学習に対する興味・関心について肯定的回答の割合が増加した。
・英語の学習が好き
(R6:65.8%⇒R7:74.2%)

- ②県内市町村において、小学校と中学校を連携させた取組が進んでいる。
(R7:94.4%)

未だ改善が必要な点

- ①言語活動を通して目指す資質・能力を確実に育成することについて、改善の余地がある。
- ②英語教育実施状況調査の結果において、ALTが授業に参画する割合が全国値と比較して低い。
・授業の半分以上参画している
(大分県:54.4% : 全国:72.8%)

2. 要因分析

- ①APU（立命館アジア太平洋大学）の留学生との交流事業を活用する等、児童が「やってみたい」と思えるような、相手意識や目的意識を大切に言語活動が充実している。

- ②大分県教育課程研究協議会における「改善の重点」のテーマに設定し、小中連携の推進を図ったためと考えられる。

- ①具体的な児童の姿を想定した上で評価規準を設定していない等、形成的評価及び習熟に応じた指導が適切になされていないことが要因と考えられる。

- ②各市町村におけるALTの数が不十分であるため、各小学校にALTが派遣される頻度が低くなっていると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①「楽しくて力の付く授業づくり」の推進
・県内の全英語専科教員が参加する小学校英語専科教員協議会や学校訪問時等において、本県の授業改善の指針である「楽しくて力の付く授業づくり」に基づいて指導助言を行い、児童が英語の学習を更に好きになるよう、授業改善を更に推進する。

- ②小中の学びをつなぐ英語教育の更なる推進
・「未来を創る授業力向上協議会（小学校外国語）」を実施し、中学校教員を参加させるとともに、県の指導主事による行政説明や協議等を通して、特に「書くこと」「読むこと」の領域において、小中連携についての理解を促進し、実践につなげる。

- ①授業改善の推進
・「未来を創る授業力向上協議会（小学校外国語）」を実施し、県の課題に即した指導主事の行政説明・協議や文部科学省の調査官による講義により、授業改善を推進し、児童の英語力の育成を図る。

- ②留学生との本物のコミュニケーションによる学習意欲の向上
・英語を学ぶ意欲の向上を図ったり、学習の成果を発揮する場を創出したりするため、希望する学校を対象に、APU留学生との交流を行う。
・教員については、留学生との交流を単元のゴールに設定することにより、単元を見通して魅力ある授業を構想できる力の育成につなげる。
・児童については、単元のゴールで実際に英語を使って留学生とコミュニケーションができる楽しさにつなげる。

令和 8 年度 大分県 英語教育改善プラン

言語活動を通した生徒の英語力の確実な育成及び 小学校と中学校の学びのつながりを大切にした指導の充実

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7: 44.4% ⇒ R8: 50.0%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①大分県独自調査の結果において、英語の学習に対する興味・関心及び授業の理解度について肯定的回答の割合が増加した。

・英語の学習が好き
(R6:45.9%⇒R7:49.8%)
・英語の授業が分かる
(R6:60.0%⇒R7:66.3%)

②県内市町村において、小学校と中学校を連携させた取組が進んでいる。
(R7:94.4%)

未だ改善が必要な点

①英語教育実施状況調査の結果において、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が、目標値までは不十分である。
(R6:44.0%⇒R7:44.4%)

②大分県独自の学力調査の結果において、低学力層の割合が増加した。
(R6:38.0%⇒R7:41.7%)

2. 要因分析

①協議会における文部科学省調査官による講義や、各市町村教育課程研究協議会の地区別協議会における県の指導主事による指導・助言及び講義等において、「楽しく力の付く授業づくり」について周知したことにより、授業改善が進んできている。

②大分県教育課程研究協議会における「改善の重点」のテーマに設定し、小中連携の推進を図ったためと考えられる。

①言語活動において、明確な目的や場面、状況等の適切な設定及び評価規準を基にした習熟の程度に応じた十分な指導がなされていないことが要因と考えられる。

②中学校において、小学校からの学びのつながりを意識した指導（特に「書くこと」「読むこと」）についての理解が不足しており、中1の段階から低学力層が固定化していると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①留学生との本物のコミュニケーションによる学習意欲の向上
・英語を学ぶ意欲の向上を図るため、希望する学校において、APU留学生との交流を行う。
・教員については、単元を見通して魅力ある授業を構想し、言語活動を通して効果的に指導できる力の育成につなげる。生徒については、単元のゴールで実際に英語を使って留学生とコミュニケーションができる楽しみにつなげる。

②小中連携の更なる推進
・中学校において、小学校からの学びを意識した指導を促進するため、小学校教員を対象とした「未来を創る授業力向上協議会」に中学校英語科教員も参加し、小学校における外国語活動及び外国語科の学習内容や指導方法についての理解を深める。
・県内の各市町村教育課程研究協議会の「地区別協議会」に県の指導主事が参加し、小学校と中学校の学びのつながりについて講義等を行う。

①中学校英語科教員の英語指導力の向上
・学習指導要領の趣旨に基づいた授業づくりの理解の促進や全国学力・学習状況調査の結果から見える本県生徒の課題の解決に向け、「中学校英語指導力向上協議会」において、県の指導主事による協議及び文部科学省調査官による講義を実施する。
・各種協議会等において、本県の授業改善の指針である「楽しくて力の付く授業づくり」に基づいた授業改善、特に習熟の程度に応じた指導の充実を図る。

②低学力層の支援と中上位層の英語力の一層の育成
・AIアプリを活用し、特に「話すこと」及び「書くこと」の学習活動において、即時フィードバック等を活用して、授業や家庭学習等において、生徒の習熟度や興味・関心に応じた効果的な指導の実現を図る。

令和 8 年度 大分県 英語教育改善プラン

探究的な学び及びAIの活用を取り入れた技能統合型の授業を推進し、
生徒の発信力育成を図る

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 50.4%、B1以上 19.0% ⇒R8 : A2以上 56.0%、B1以上 22.0%)

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が改善。
(R6:49.5% ⇒R7:50.4%)
- ②CEFR B1以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が改善。
(R6:16.0% ⇒R7:19.0%)
- ①生徒の発信力を高める言語活動の質を向上させることについて、改善の余地がある。
- ②教師が発話の50%以上を英語で行っている学校の割合について、改善の必要がある。
(R6:32.9% ⇒R7:37.9%)

2. 要因分析

- ①②指導教諭を中心とする授業改善プロジェクトチームによる公開授業やワークショップ型研修を通して、単元を通じた指導と評価の一体化に関する教員の理解と実践が各校で着実に深化した。
- ①育成を目指す資質・能力に基づく技能統合型の言語活動の計画的・系統的な実施や、生徒が自分の考え等を繰り返し発信・改善する学習過程の充実に改善の余地がある。
- ②言語活動を中心とする授業における教師の役割や、教師の英語使用の目的・効果に関する理解及び実践に改善の余地がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②探究的な学びの推進
 - ・指導教諭や遠隔教育配信センターを中心として、言語活動を中心とした探究的な学びのモデル授業を県内に普及し、授業改善を推進する。
 - ・県教育委員会が作成した「探究的な学びハンドブック」を授業研究会等で活用し、各校における探究的な学びに関する理解と実践を促進する。
- ①AI英語アプリの活用
 - ・県内モデル校を中心に、授業や家庭学習におけるAI英語アプリの活用を推進し、生徒が自らの考えを繰り返し発信し、AIによる即時フィードバックを基に表現を改善する学習機会の充実に図る。
 - ・AI英語アプリの活用を通して、教師が生徒の英語力や学習状況をより詳細に把握し、一人一人に応じた指導・支援を充実させることで、個別最適な学びの実現につなげる。
- ①②ALTの効果的な活用
 - ・授業においてALTを有効に活用し、生徒が英語でやり取りを行う機会を計画的に設定することで、実践的なコミュニケーションの充実と言語活動の質の向上を図る。
 - ・県内ALTが参加する「オンラインスピーキングレッスン」を活用し、生徒とALTが1対1で英語によるコミュニケーションを行う機会の充実に図る。

大分県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	49.9	52	49.5	54	50.4	56		58	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		16	17.8	20	16.0	20	19	22		23	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		55	42.5	55	44.4	60		65		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		50	49.8	54	63.4	56		58		60	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	80	42.6	80		80		80		80	
		達成状況の把握（％）	80	70.2	80		80		80		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		85	88.1	89	85.4	89.5	87.8	90		90.5	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		50	30.4	55	32.9	60	37.9	65		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	45.0	50	44.0	50	44.4	50		52	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	77.5	80		81		82		83	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		90	86.5	90		91		92		93	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	70	83.6	85		87		90		92	
		達成状況の把握（％）	85	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	44.5	52	50.5	55	56.9	57		60	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		80	60.2	65		67		70		72	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	50	70	75		80		85		90	
		達成状況の把握（％）	80	96.4	100		100		100		100	